

## 根未完成歯、失活歯および移植歯に対する歯髄再生治療の臨床応用と経過報告

諸隈歯科医院  
院長

諸隈 正和 (Morokuma Masakazu)



### 【要旨】

#### 〔背景・目的〕

歯の喪失は咀嚼機能の低下を介してオーラルフレイルやフレイルと関連することが報告されており、歯の長期保存は口腔機能の維持に重要である。近年、歯髄由来間葉系幹細胞を用いた歯髄再生治療の臨床応用が報告されている。本報告では、異なる病態に対する歯髄再生治療の臨床経過を報告する。

#### 〔症例〕

12歳男性の根未完成歯および29歳男性の失活歯・移植歯に対し、不要歯から採取・培養した歯髄由来間葉系幹細胞を自家移植した。経過観察中、重篤な有害事象は認められず、根尖部透過像はいずれも縮小傾向を示した。

#### 〔考察・結論〕

既報では、ヒトにおける自家歯髄由来幹細胞移植後の安全性や、歯髄様組織形成、根発育などが報告されている。今回の症例においても良好な臨床経過が得られ、歯髄再生治療は、根未完成歯のみならず失活歯や移植歯に対する新たな歯の保存戦略となる可能性が示唆された。

### 【略歴】

2008年 日本大学 歯学部 卒

2013年 日本大学 大学院 歯学研究科 卒

2017年 諸隈歯科医院 継承

### 【所属学会・所属団体】

日本歯内療法学会

日本補綴歯科学会

日本矯正歯科学会

日本顎咬合学会

日本口腔インプラント学会



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会  
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine